

(別紙)新旧対照表

新	旧
<p>4. 地域再生計画の目標</p> <p>本町は、埼玉県の北西部に位置しており、平成18年1月1日に旧神川町と旧神泉村が新設合併し「神川町」となった。新しい町は、全面積の約3分の2が埼玉県立上武自然公園区域に指定されており、豊かな自然に恵まれている。</p> <p>神泉地域は山間部に点在する観光資源による観光産業を主力とし、神川地域は2箇所の工業団地による首都圏80キロ圏内を活かした企業誘致を進め、農工調和のとれたまちづくりを行ってきた。水源地のある豊かな森林には、晩秋から初冬にかけて咲く冬桜の公園や町営の宿泊施設がある。また、沢の流れを利用したフィッシングパーク、神流川には下久保ダム、国指定名勝・天然記念物の三波石峡、右岸に道のオアシス、水辺公園、県営日帰り温泉施設を有した野外スポーツレクリエーション施設などの公園が多数ある。その他には、埼玉県下有数の初詣客でにぎわう金鑽大師や金鑽神社など多くの観光資源があるが、観光客数は減少傾向にある。また、水辺を利用した多数の公園も、農業用水のパイプライン化による用排水分離や、生活様式の変化による未処理の生活雑排水の流入により河川の水質が悪化しつつあり、水辺で遊ぶことも難しくなっている。</p> <p>(略)</p> <p>そこで、生活雑排水を処理するために、旧神泉村は平成5年から、旧神川町は平成8年から浄化槽の個人設置型事業を開始、平成13年には旧神川町の南部で、平成17年には旧神川町の北東部で公共下水道事業を開始しているが、水質改善にまでは至っていない。</p> <p>(目標1)</p> <p>汚水処理施設の整備の促進(汚水処理人口普及率を38%から51%に向上)</p> <p>(目標3)</p> <p>点在する観光資源を活用した日帰り型と近隣の宿泊施設を利用した滞在型の回遊ルートにより、観光客数の増加を図る。(平成21年度の入込観光客数年間1.8万人)</p>	<p>4. 地域再生計画の目標</p> <p>神川町は、埼玉県の北西部に位置しており、平成18年1月1日に神泉村と新設合併し「神川町」となる。全面積の約3分の1が埼玉県立上武自然公園区域に指定されており、豊かな自然に恵まれている。</p> <p>町は、首都圏80キロ圏内を活かして2箇所の工業団地に企業誘致をすすめ、農工調和のとれたまちづくりを行うとともに、埼玉県下有数の初詣客でにぎわう金鑽大師や金鑽神社など多くの観光資源を活かした観光客誘致に努めているが、近年観光客数は減少傾向にある。また、神流川右岸には、水辺公園、県営日帰り温泉施設を有した野外スポーツレクリエーション施設などの公園が多数あるが、水辺を利用したこれらの公園も、農業用水のパイプライン化による用排水分離や、生活様式の変化による未処理の生活雑排水の流入により河川の水質が悪化しつつあり、水辺で遊ぶことも難しくなっている。</p> <p>(略)</p> <p>そこで、生活雑排水を処理するために、平成8年から浄化槽の個人設置型事業を開始、平成13年には町の南部で、平成17年には北東部で公共下水道事業を開始しているが、水質改善にまでは至っていない。</p> <p>(目標1)</p> <p>汚水処理施設の整備の促進(汚水処理人口普及率を38%から50%に向上)</p> <p>(目標3)</p> <p>点在する観光資源を活用した日帰り型と近隣の宿泊施設を利用した滞在型の回遊ルートにより、観光客数の増加を図る。(平成21年度の入込観光客数年間1.1万人)</p>

新

5. 目標を達成するために行う事業

(5-2)法第4章の特別の措置を適用して行う事業

汚水処理施設整備交付金を活用する事業

対象となる事業は、以下のとおり事業開始に係る手続き等を了している。  
なお、整備箇所については、別添の整備箇所等を示した図面による。

[事業主体]

- ・いずれも神川町

[事業区域]

- ・浄化槽（個人設置型） 神川町神川地区、神泉地区

[整備量]

- ・浄化槽（個人設置型） 230基  
 なお、各施設による新規の処理人口は下記のとおり。
  - ・公共下水道
 

神川町渡瀬地区	1,000人
神川町神川地区	650人
  - ・浄化槽（個人設置型）神川町地区 889人  
神泉地区 88人

[事業費]

- ・公共下水道
 

事業費	961,500千円	(うち交付金	480,750千円)
-----	-----------	--------	------------
  - ・浄化槽（個人設置型）
 

事業費	57,480千円	(うち交付金	19,160千円)
-----	----------	--------	-----------
- 
- 合計 事業費 1,018,980千円 (うち交付金 499,910千円)

(5-3)その他の事業

冬桜まつりやコスモスまつりなどを開催し、地域芸能の発表や農山村風景の写真コンテスト、地場産製品の販売等を行い、交流人口を増加させる。

旧

5. 目標を達成するために行う事業

(5-2)法第4章の特別の措置を適用して行う事業

汚水処理施設整備交付金を活用する事業

対象となる事業は、以下のとおり事業開始に係る手続き等を了している。なお、整備箇所については、別添の整備箇所を示した図面による。

[事業主体]

- ・いずれも埼玉県児玉郡神川町

[事業区域]

- ・浄化槽（個人設置型） 神川町神川地区

[事業費]

- ・公共下水道
 

事業費	961,500千円	(うち交付金	480,750千円)
-----	-----------	--------	------------
  - ・浄化槽（個人設置型）
 

事業費	50,400千円	(うち交付金	16,800千円)
-----	----------	--------	-----------
- 
- 合計 事業費 1,011,900千円 (うち交付金 497,550千円)

[整備量]

- ・浄化槽（個人設置型）
 

	5人槽	6~7人槽	8~10人槽	合計
平成18年度	30基	27基	3基	60基
平成19年度	30基	17基	3基	50基
平成20年度	30基	17基	3基	50基
平成21年度	30基	17基	3基	50基
合計	120基	78基	12基	210基

なお、各施設による新規の処理人口は下記のとおり。

- ・公共下水道
 

神川町渡瀬地区	1,000人
神川町神川地区	650人
- ・浄化槽
 

神川町地区	889人
-------	------

(5-3)その他の事業

コスモスまつりなどを開催し、地域芸能の発表や地場産製品の販売等を行い、交流人口を増加させる。

新	旧
<p><u>森林ボランティア活動による下刈りや間伐を積極的に行うほか、森林資源の活用により集落の環境を良好にし、住民の定住促進を図る。</u></p> <p><u>滞在型の観光機能を高めるため、地域間交流、農業体験や林業体験など多様な学習活動の場として、「町営冬桜の宿神泉」を観光の本拠点とする。</u></p> <p><u>上下流交流事業や水に関する啓発事業として、水を供給するダムや水を守り育む上流地域と多くの水を利用する下流地域住民が交流を通じて相互の理解を深めるために、小学生と保護者による上下流地域の相互訪問を行う。</u></p> <p>7. 目標の達成状況に係る評価に関する事項</p> <p>4に示す数値目標については、<u>神川町において計画終了後に必要な調査を行い状況を把握、評価、公表する。</u></p> <p>8. 地域再生計画の実施に関し当該地方公共団体が必要と認める事項</p> <p>該当なし</p>	<p>7. 目標の達成状況に係る評価に関する事項</p> <p>4に示す数値目標については、計画終了後に必要な調査を行い状況を把握、評価、公表する。</p> <p>8. 地域再生計画の実施に関し当該地方公共団体が必要と認める事項</p> <p>特になし</p>